*神奈川県立こども医療センター（KCMC）*

# 小児がんセンターたより

　最近、”AYA 世代”という言葉を目にする機会が増えたという方もいらっしゃるかと思います。AYA とは Adolescent and Young Adult = 思春期、若年成人の略で、AYA 世代に発生するがんについては、国の第３期がん対策基本推進計画の中で小児がん、高齢者のがんに並んで積極的に取り組むべき課題として取り上げられました。AYA 世代には肉腫を中心とする小児期のがんだけではなく、成人型のがんも発生することがあります。疾患種類が多様である一方、個々の疾患は希少であり、医療体制の面でも小児科と成人診療科のはざまにあって、AYA 世代のがんに対しては十分な医療体制が整備されてきませんでした。

　神奈川県立こども医療センターは小児病院としても役割から、すべての AYA 世代患者さんの診療を直接的に行うことはありませんが、高校生を中心とした思春期世代患者の療養環境整備などに取り組んでいます。医療だけではなく、就学、就労、生殖機能の問題など、解決すべき課題は多くありますが、今後、県内の他施設と連携し、AYA 世代がん患者に対する診療体制の整備、相談支援体制の整備を進めたいと思います。

小児がんセンター長　後藤裕明

**【セミナー・研修会などのお知らせ】**

- **10 月 3 日(水)栄養サロン**
- **10 月6日(土)小児緩和ケアセミナー**

詳しくは、ホームページでご確認ください。

# レモネードスタンドについてのご紹介！

たより１号で、「もっと知ってほしい小児がんのこと・小児がんレモネードスタンド」を開催したことをご報告いたしましたが、今年度も８月５日に実施しました。すでに存じの方も多いかもしれませんが、今回はレモネードスタンドについてご紹介します。

１歳で小児がんと診断されたアメリカのアレックスちゃんは、４歳になった頃、同じ病気と闘うお友達の死を体験し、「レモネードを売ったお金で病気の子供たちを助けたいの」と、自宅のお庭でレモネードを売ってその売り上げを病院に寄付することを始めました。この「レモネードスタンド」は口コミで知られ、次第に全米へ支援が拡がっていきました。残念ながらアレックスちゃんは８歳で天国に旅立ってしまいましたが、現在でも活動は続き「アレックスのレモネード基金」として小児がん研究のための寄付金が集められ資金提供されています。

このお話しは高校の英語の教科書にも掲載されており、日本でもこの想いが少しずつ広がり、子どもたちが文化祭や街頭などでこの活動を行ったり、また小児がん関連のイベントで行われているところもあります。「レモネードスタンド」を見かけたら、アレックスちゃんの想いを思い出しながら、がんで闘う子どもたちや若者たちの応援につながる支援を考えてみませんか。

# 小児がん相談支援室
# 情報コーナー

がんの治療では、抗がん剤などの影響により、脱毛が起こることがあります。そして、その治療薬や方法によっても脱毛の程度は様々ですが、たとえそれが一時的でも、また中には長期間に影響を受ける場合もあり、子どもたちにとって、元々あった髪の毛がなくなる状況は、ショックを受けたり、周囲との関係の中でとても気になってしまうことの一つです。脱毛は子どもの自尊心や生活の質に影響を与えることも言われており、必要な子どもに適切なウィッグなどがあることが望ましいのですが、成長発達の過程にある子どもたちに十分なウィッグがあるとは言い難いのも現状です。ここで「ヘアドネーション」についてご案内させていただきます。最近では、民間や NPO 団体さんなどのサービスも拡がりつつあるようですが、「31 ㎝以上の」の長さであれば、極端な傷みがなければ提供できるようです。活動に賛同している美容院もあり、そこでカットや発送代行などもしていただけるようです。長い髪の毛を切るときには少し思い出していただけると嬉しいです。

小児がんに関連したご相談は

「小児がん相談支援室」（本館 1 階 7 番窓口）までご連絡ください

時間：平日（月～金）8:30～17:15

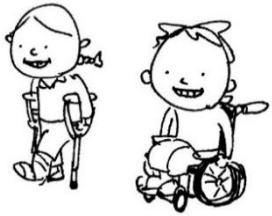
相談方法：面談・電話・メール

電話：045-711-2351　E-mail：shounigan@kcmc.jp

# 各部門からのお知らせ

## ～ リハビリ科～

　小児がん診療を当センターで行っている児に対して、身体機能や生活の質の改善、発達の促しなどを目的として、リハビリテーション(リハ)を行っています。こどもは、日々の様々な経験を基にして学び、行動し、新しい能力を獲得していきます。そして、身体面、知的面、情緒面や社会性など、様々な側面が相互に関連しながら発達します。小児がん診療中のこどもは、がんそのものや治療の過程で生じる後遺症・副作用、長期入院・特殊な環境など、さまざまな制限の中にいます。そのようなこどもたちに対して、身体的、社会的、心理的、発達的に、より良い活動・生活につながることを目指してリハを行っています。

　がんのリハは、様々な病状や状況、どのような時期も対応しています。がんの診断後早期に開始して機能低下の予防を目指すリハ、治療開始後の筋力・体力の低下や種々の機能・能力の低下等に対して最大限の機能回復や維持・改善を図るリハ、積極的な治療が困難となった場合に、こどもやご家族の希望・要望を尊重しながらよりよい生活が送れるように支援するリハ、特殊な環境下で過ごすこどもの発達支援など、さまざまです。リハは、治療を担当する医師や看護師、そしてリハに従事するリハ医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などが連携して行っています。

　今後も当センターにおける小児がん診療の一環としてリハビリテーションに取り組んで参りたいと存じます。